

■日時 平成25年8月17日(土) ■天候 曇り

天理高校 対 埼玉県立大宮中央高校・通

■球場 駒沢公園硬式野球場 第1試合 決勝 ■試合時間 2時間06分 ■備考

■審判 球審:家田 塁審:渡辺登 並木 小林

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9						計	安	失
大宮中央・通	埼玉	0	0	0	0	0	0	0	0	1						1	3	1
天理	奈良	0	0	3	0	2	1	2	0	X						8	9	0

大宮中央・通		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9					
1	遊		矢野尾 佳 純	4	1	2	0	左安		二飛			二ゴ			中安					
2	二		羽根田 知 樹	3	0	0	0	三振			三失		三振								
2	打		永 松 健 太	1	0	0	0									三振					
3	一		徳 弘 孝 孝	4	0	0	0	投ゴ			三ゴ			左飛		二ゴ					
4	右		丸 山 幸 志	4	0	1	1	三振			三振			三振		中3					
5	捕		加 藤 巧 巧	4	0	0	0		三振					左飛		三振					
6	左		山 田 拳 拳	1	0	0	0		三振			死球			四球						
7	投		粕 谷 舜 舜	3	0	0	0		三振			右飛			三振						
8	中		鉢 嶺 真 真	3	0	0	0			二飛		右併			三振						
9	三		田 崎 充 寿	3	0	0	0			遊ゴ			三振		遊ゴ						
合計				30	1	3	1	残塁:4 併殺:1													
備考																					

■バッテリー

投手
粕 谷 舜

捕手
加 藤 巧

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
粕 谷 舜	8	37	9	3	3	8

天理		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9					
1	中		飯 田 佳 伸	4	2	1	0	二ゴ		死球		左3	投飛		三ゴ						
2	二		奥 村 陽太郎	4	2	2	2	投ゴ		左安		左2		二飛							
2		二	久 米 恭 介	0	0	0	0														
3	捕		山 本 侃 侃	3	0	0	1	四球		三ゴ		三振		二飛							
4	一		小 川 正 直	3	1	2	2	一邪		右安		中安		死球							
5	投		辰 己 優 貴	4	1	1	0		中飛	右飛		遊直		遊安							
6	右		吉 岡 京 助	4	0	1	2		二ゴ		二ゴ		二ゴ	右2							
6		右	市 野 一 雅	0	0	0	0														
7	遊		餘 目 航 航	4	1	1	1		遊飛		三邪		中本	三ゴ							
8	左		奥 谷 公 紀	3	1	1	0			投安	二ゴ		投失								
8	打	左	中 尾 勇 人	1	0	0	0								三ゴ						
9	三		浅 井 慎太郎	4	0	0	0			二ゴ		三ゴ	三振		三振						
9		三	立 花 清 司	0	0	0	0														
合計				34	8	9	8	残塁:5 併殺:0													
備考																					

■バッテリー

投手
辰 己 優 貴

捕手
山 本 侃

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
辰 己 優 貴	9	32	3	14	2	1

■戦評

大会第5日目、神宮球場がイベントで使用できないため駒沢球場で行われた第60回記念大会の決勝戦は7年連続の優勝を狙う天理と準決勝までの5試合で46点を奪い勢いに乗る大宮中央との対戦になった。1回表大宮中央は天理先発辰己の立ち上がりをつま先頭の矢野尾が左前打で出塁するも後続を絶たれ無得点に終わる。3回裏天理は内野安打と死球で一死一三塁から2番奥村が三塁線を破る適時打を打ち1点先制。続く3番山本の三塁ゴロの間に三塁走者飯田が判断良く本塁を陥れもう1点追加。さらに4番小川の右前打で二塁から奥村が生還し3点目を上げる。一方の大宮中央は4回表敵失の走者を二塁まで進めるも後続を二者連続三振に抑えられ反撃の芽を摘まれてしまった。天理は5回裏左翼越三塁打の飯田を2番奥村が左翼線二塁打で返し1点追加。4番小川の中前適時打で奥村も返りこの回2点目を追加する。続く6回裏には7番餘目の左中間ランニング本塁打で1点。7回裏には死球と内野安打で二死二三塁から6番吉岡が右翼越二塁打を打ち2点を追加して8-0とリードを広げる。一矢報いたい大宮中央は最終回先頭の1番矢野尾が安打で出塁。盗塁と内野ゴロで二死ながら三塁まで進む。ここで4番丸山が辰己の渾身のストレートを叩き右中間を深々と破る三塁打を放って意地を見せ初戦から失点ゼロの天理から今大会初得点をもぎ取る。しかし辰己は冷静に次打者をこの試合14個目の三振に打ち取りゲームセット。天理高校が埼玉勢初の優勝を目指した大宮中央の挑戦を退け危ない戦いぶりを遺憾なく発揮し8-1で勝利して見事7年連続の優勝を飾った。